

犯罪や非行に走った人々の 社会復帰に地域全体で支援を

「最近、自分の子どもだけに目を向けて、周りの子どもたちの様子を大人が見て見ぬふりをする傾向がある」と話すのは、甲佐町保護司会の会長を務める仲原勝良さん（船津区）。甲佐町保護司会は

現在10人の保護司で構成され、仲原さんは7年間、本町の保護司として活動し、今年からは会長を務めている。保護司は、犯罪や非行に走った人々の更生や改善を支援する活動を行う法務大臣が

ら委嘱されたボランティア。社会的な希望の厚い民間人として保護観察に当たり、刑務所や少年院などから社会復帰を果たす人々を支援。また、暮らしやすい安心・安全な地域社会を目指して、7月の「社会を明るくする運動」強化月間で啓発活動を行うなど地域での犯罪予防運動にも積極的に取り組む。犯罪や非行に走った人々へ



仲原 勝良さん
Katsuyoshi Nakahara

〔船津区〕

なかはら かつよし / 甲佐町保護司会長。法務大臣から委託された保護司として、犯罪や非行に陥った人々の社会復帰の支援活動などに従事。

の指導や援助に奔走する仲原さんは「本人と会って話す中で、どこまで関与してよいかを見極めるのは難しい」と話す。「とにかく本人の話をしっかり聞いて、言うことを信じてみるのが大事。気持ちを理解した上で、そこから何でも話してくれる良好な関係を作っていく」と話す仲原さん。

つまづいてしまった人生の立ち直りを手伝う難しい支援に取り組む中で、「自分のことだけに関心を向けるのではなく、周囲が気付いてあげること、陰ながらもやさしく見守っていくことが再発防止にもつながる」と仲原さんは力強く語る。

活動を通して感じたこととして、「支援する未成年者を見てきた中で、家庭で甘やかすところが多い。子どもの将来を見据えて、小さいうちから厳しいしつけをしてほしい」と仲原さん。「地域全体で周囲に目を向けて、地域の子どもたちを育てていく姿勢を持っていただきたい」と、地域の未来を見つめる。